

観世流能楽師

東京北区観光協会会長

東京商工会議所北支部会長

観世三郎太 × 大前孝太郎 × 越野充博

顕彰能

青淵スペシャルトーク

北区飛鳥山の地にゆかりの深い、近代日本の基礎を築いた実業家・渋沢栄一翁を主人公とした新作品「青淵」を上演する。シテは新進気鋭の能楽師・観世三郎太。監修を務めたのは観世清和・二十六世観世宗家。若き日の渋沢を演じる観世三郎太氏と、北区観光協会会長の大前孝太郎氏、東京商工会議所北支部会長の越野充博氏に、今作に向けた意気込みと、能楽に対する思いを語っていただいた。

■顕彰能「青淵」について

越野…いよいよ、渋沢栄一翁を主人公とする新作品「青淵」が完成しました。若き日の栄翁、篤太郎を演じられる観世三郎太さんにお越しいただきました。「飛鳥山新能」の地元東京北区観光協会会長の大前孝太郎さん、そして私、東京商工会議所北支部会長の越野充博とでお話させていただきます。

越野…それでは、北区の渋沢プロジェクトをサポートし続けている、大前理事長からまずお話をいただきたいと思います。

大前…飛鳥山は北区王子を象徴する場所です。そこで「1003年」から「飛鳥山新能」を開催していただいています。これは観光協会にとっても素晴らしい取り組みで、ぜひ継続しなければならぬと思っています。その飛鳥山に居を構えておられた渋沢翁の人生



左：越野充博氏 中：観世三郎太氏 右：大前孝太郎氏

が新たに能となり、それも観世清和と宗家の監修を頂き、ご子息の三郎太さんにご出演をいただくという事になりました。これは歴史的な意義ある公演になるのではないかなと思っています。今から本当に楽しみにしております。

越野…今回、シテ方を務めていただく観世三郎太さんはお若くていらしゃいますが、何年のお生まれですか？

観世…一九九九年生まれです。

越野…飛鳥山新能がスタートした時は四歳ですね。

大前…そうですね。だからなんと本本当に（笑、凄いな、画期的な出来事と思います）。

越野…私たちが少しずつ紡いで来た地域の行事を次世代につなげるという契機になるのではないかと思います。

越野…さて、東京商工会議所北支部の会長として、言申し上げたい事があります。渋沢翁が、新たに発行される二万円札の顔になると決まった時、東京商工会議所の中でも盛り上がり、いろいろなイベントの案が出て来ました。「飛鳥山新能」の実行委員会の中でも「渋沢翁を主人公とした新作品を作れないだろうか」と、盛り上がりつつありました。

越野…「飛鳥山新能」を開催している飛鳥山公園ですけれども、こちらに三つの博物館があります。その内の一つが、渋沢栄一記念財団が運営されている渋沢史料館です。「論語と算盤」の読書会、講演会への参加、一方で「飛鳥山新能」への協力を頂くというように、非常に地元とは深い関係にあります。樺山紘一先生が理事長に就任されて、新年会で講演をして頂いた際に、新作品「青淵」についてご相談申し上げ、制作委員会委員長へのご就任をお願い申し上げました。樺山先生は歴史学者でフランス中世史・西洋文化史が専門で、そういう世界的な意味合いを含めてご評価を頂いたようです。

快くご承諾いただき、顕彰能「青淵」制作委員会が発足し、具体的なスタートを切りました。

私どもの思いとしては、能楽を通じて渋沢翁の功績について多くの方に知っていただくと同時に、顕彰能という形で広く私たちの共通財産として我が国の社会変革への大きな意思を示す公演を行う。大上段ではありますが、こういうところを目指しております。

■渋沢栄一翁を演じるにあたって

越野…ここからは、観世三郎太さんにいろいろとお話を伺っていきたいと思います。最初のご質問は大前理事長からお願いできますか。

大前…はい。では、三郎太さんにお伺い致します。昨年、「青淵」の制作発表会の会見をされた時、渋沢翁を演じられる事についてお話をされたと同じく、渋沢翁について、お感じになっていた